

1 別府市における新図書館の役割

都市政策課題の解決のためには、分野ごとに議論されてきたそれぞれの課題を、多種多様な立場の人々が共有し、強みをつなげ、課題解決や変化に対応する新しい価値やサービスを生み出す場が必要である。図書館はまさに、誰にも開かれたオープンな知の集積拠点となる。

本市における都市政策課題（第4次総合計画より抜粋）

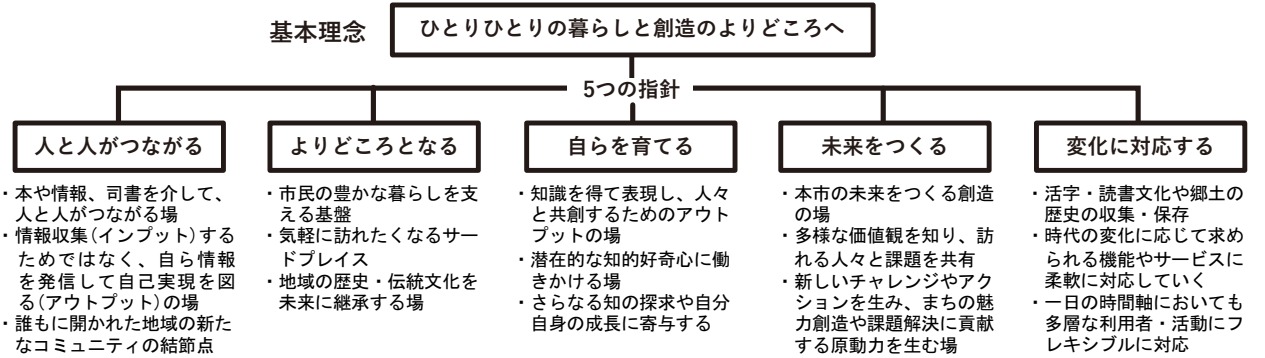
政策	施策の方向性※抜粋
観光・産業	・生産性向上、持続可能な経営の確保、人材の育成・確保 ・観光資源の磨き上げ、観光客の満足度・消費の向上、受け入れ態勢整備 ・観光と市民生活の調和の確保及び市民福祉への還元等
健康・福祉	・各世代における主体的な健康づくり支援 ・地域における包括的な支援力の強化、安全安心を高める地域づくり等
子育て・教育	・すべての子どもが希望を持ち、健やかに成長できる環境づくり ・地域や社会全体で子育てを見守り支えあうことのできる体制づくり ・新しい学びに対応した教育基盤整備 ・人生100年時代を支える生涯学習の推進 ・新図書館等の整備及び多機能化、社会教育施設のネットワーク化等
都市基盤	・特色ある景観の維持及び保全、公園や海岸等の整備及び利用促進 ・施設・設備等の耐震性の確保等
環境・くらし	・自然環境との共生の推進 ・地震津波等に対応するハード整備、地域防災力・防犯力の強化等
協働・コミュニティ	・持続可能な地域づくりの推進 ・地域運営組織に対する支援の充実等
行財政・運営	・デジタルファーストの推進等による市民サービスの向上や行政運営の効率化 ・中規模多機能自治区、企業、大学機関、団体等との協働の推進

本市における新図書館の役割

教育における役割 まちの将来を担う人材育成、学校教育を超えた学びの場 子どもの読書推進活動、調べ・探求学習やアクティブ・ラーニング推進等
健康・福祉における役割 医療・福祉分野における課題解決に資する場 障がい者の読書支援、子育て支援、健康情報提供、予防・未病への取組等
産業における役割 新たな産業を生み出す事業創造の支援の場 人的なネットワーク形成、起業・創業支援、経営を学ぶ場等
アートにおける役割 市民の芸術文化活動を支援する場 市民アート活動の記録や普及、障がい者アートの活動支援等
まちづくりにおける役割 まちの将来像や政策を体現する場 まちの将来像を描く政策形成の場、郷土資料を収集・保存・活用、コミュニティ醸成等

2 新図書館の理念について

『教育』・『健康・福祉』・『産業』・『アート』・『まちづくり』に貢献する地域の創造拠点として、また、市民が憩い、安らぎ、暮らしを楽しむサードプレイスとしての公共空間として機能することを目指す。



3 新図書館等のサービス目標

図書館の政策的役割を踏まえ、以下の新図書館における新しい機能・サービス、連携する機能・サービスを検討する。

現図書館で提供されている図書サービス

選書方針に基づく資料の収集・提供
各種図書サービス
・貸出/返却
・レファレンスサービス
・図書館オンラインシステムの運用等
企画業務
・企画展の実施
広報活動
・広報・周知活動
教育にかかわる活動
・読書推進活動
・学校連携
・読み聞かせ
・「絵本のとびら」の配布
・不登校児童生徒への図書館等活用推進
健康・福祉にかかわる活動
・移動図書館等
まちづくりにかわる活動
・郷土資料の収集、保存
その他の活動
・別府市ハーフ住民クラブ会員への貸出
・図書館ボランティアの受入及び研修、情報交換

<蔵書計画>

- ・時代の方向性やまちの将来像を見据えた、時代の変化に対応する蔵書構成。
- ・基本理念を基に市民のニーズの把握を行った上で、蔵書方針を策定する。
- ・蔵書数は時代にに応じて柔軟に変化するが、将来的に30万冊程度収蔵可能なスペースを目安として検討する。

新図書館における新しい機能・サービス

教育にかかわる活動
・学校図書館との連携・強化
・子どもたちへの学習環境支援
・大学図書館との連携
・不登校児童生徒の居場所づくり
健康・福祉にかかわる活動
・健康情報の提供促進
・保育園、医療・福祉施設、公民館等への情報支援活動
・情報やコミュニケーションのバリアフリー化
・対面読書サービス(視覚障がい者向け)
産業にかかわる活動
・ビジネス支援活動
・図書館オンラインシステム(電子図書館等)の導入検討
・外国人(留学生・観光客等)への情報提供
アートにかかわる活動
・アート活動の保存・活用
まちづくりにかわる活動
・郷土資料のデジタル・アーカイブ化
・施設内外のイベント連携
・市民活動団体、NPOへの情報提供

+

<年間来館者数>

- ・市民はもちろん、市外利用者、留学生や観光客など、多様な人々が来館する施設を目指す。
- ・一定の目標値は、来年度以降定めるが、平成30年度時点の14.3万人から年間50万人を目指す。

図書館と連携する機能・サービス

教育にかかわる活動
・学校教育では抱えない教育プログラム
・探究するための学びの提供
・放課後や休暇中など学校外での学びの場
・不登校児童生徒のための学習支援
健康・福祉にかかわる活動
・子育て支援サービス(キッズスペース等)
・健康増進のための場づくり
産業にかかわる活動
・起業創業支援、経営相談
・ワークショップスペース
・ネットワーキングやコミュニティ形成の場
・チャレンジジョブなどのテストマーケティングの場
アートにかかわる活動
・創作拠点、スタジオ機能
・ポータルアートの表現の場(展示、市民ギャラリー等)
まちづくりにかわる活動
・まちの情報収集・発信の拠点
・観光案内
・賑わい機能(カフェ、物販スペース等)
・市民活動支援、コミュニティ形成支援

+

<全域サービス>

- ・あらゆる市民が図書館サービスを利用できるよう、新図書館外の公共施設などを活用した図書館ネットワークを構築する。
- ・新たに分館を整備するという発想だけでなく、持続可能なサービスや仕組みの構築に努める。

4 新図書館等の建設計画

＜建設予定地＞

- 市役所西側の別府公園文化ゾーンとする。
- 周辺の公共施設との連携、相乗効果が期待でき、文化や教育の情報を発信するエリアの拠点として、今後の都市戦略を象徴する施設整備を行うものとする。

建設規模：5,150㎡程度
建設費：約25.6億円／図書購入・什器備品費：約10億円

＜施設整備の基本方針＞

- すべての人の利用に配慮した施設づくり
- 安全・安心に配慮した施設づくり
- 環境に配慮した施設づくり
- 図書資料の保全

＜駐車場・駐輪場＞

駐車場台数：225台程度／駐輪場台数：75台程度
※別府公園周辺の公共施設の駐車場：約1,310台

＜建物配置の基本方針＞

公園の中に建つ図書館ということに配慮し、周囲の景観と調和し、緑や眺望を活かした配置計画を行う。緑豊かな公園と一体化した空間づくり、開かれた図書館とする。図書館の核となる資料の収集提供・アーカイブ機能は建物の中心に、時代の変化に合わせた「育む場」「学びの場」「交流の場」といった機能を設け、機能をつなげる1つの大きな「サードプレイス」が図書空間である。

育む場：市民の夢や自己実現の達成を支える場。

学びの場：子どもたちをはじめ、市民、起業家、ベンチャー企業などの成長をサポートする。

交流の場：世代を超えた人々とのネットワーク、コミュニティを育てていく交流の場。

サードプレイス：市民生活のよりどころとなる、心地の良い公園のような余白の空間。



別府公園とつながる新図書館



図書空間と連携機能が一体的につながり、賑わいを生む



本の知識をもとに様々なトライアルやイベントが可能な連携機能 時間帯に応じて利用者や使い方が異なるフレキシブルな空間

＜各部門の機能・サービス＞

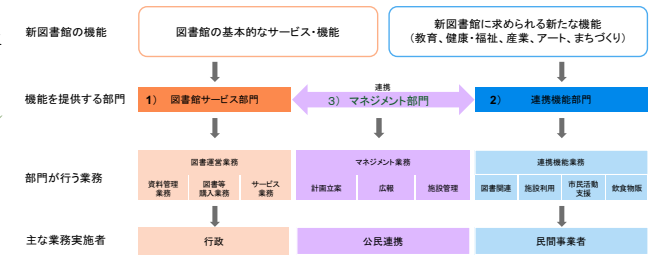
ゾーン		利用者のためのゾーン	
機能	図書サービス機能	機能	共用機能
機能の説明	以下のスペースを設け、利用シーンに応じて、会話や活動が伴う市民交流の場や、静かに読書・研究する場など、交流のできる空間と静かな空間との区別をつけ、様々な利用に対応できるように多様な空間づくりを配慮する。	機能の説明	利用者同士が交流を図ることのできる共用エリアを配置する。図書館機能とは分断せず、ゆるやかにつながるよう、配架との親和性や、利用シーンや活動に配慮する。
開架エリア	一般開架、新聞・雑誌コーナー、視聴覚コーナー、地域・郷土資料コーナー、大活字本・点字・録音図書コーナー、スタディールーム(サイレントルーム)、レファレンスカウンター(調査相談)、サービスカウンター(案内、貸出、相談)等	共用エリア	エントランス、談話スペース、WC、廊下、授乳室
乳幼児・児童エリア	児童書架(高学年・幼児・低学年)、大型絵本・布絵本・紙芝居コーナー、閲覧スペース、読み聞かせ等が可能な乳幼児スペース、授乳室、オムツ替え室、子どもトイレ等	集会エリア	市民活動を支援するための機能(例)オープンプラットフォームエリア(多目的スペース)、市民ギャラリー、貸しスペース等
ティーンズエリア	ティーンズ書架、交流スペース、グループ学習室	創作エリア	市民やアーティストが創作活動をするための機能(例)創作スペース、ワークショップスペース等
ゾーン	管理運営者のためのゾーン		
機能	管理運営機能	機能	保存機能
管理運営エリア	図書館事務室、蔵書修繕作業室、ボランティアルーム、更衣室、休憩室、搬入動線、バックヤード、設備・機械・電気・サーバー室等	保存エリア	開架書庫、それに伴う作業室、郷土資料保存室等
ネットワークエリア	移動図書館車の庫庫、本の積み下ろし・保管ができる倉庫		
ゾーン	外構		
	公園散策路、エントランス広場、イベント広場、オープンテラス、駐車場・駐輪場等		

5 管理・運営の基本方針

図書館の基本的なサービスや機能に加え、新たな機能が想定される。図書館サービス部門、連携機能部門、その部門を横断的につなぐマネジメント部門によって構成される。

＜業務を担う主体と役割分担＞

図書館サービス部門：行政
マネジメント部門：公民連携組織
連携機能部門：民間事業者



6 事業スキーム及び収支(概算)の想定

想定される事業収支を右図に示す。光熱水費や人件費等で構成される維持管理運営費は概算で約2億円/年、施設整備費を単年度換算すると約1.8億円と算定する。

事業手法(①設計・運営連携方式、②設計・建設一括方式、③DBO方式、④BTO方式)について、収支による定量的評価と、公共サービスの向上、民間参画可能性の観点による定性的評価を行ったところ、①設計・運営連携方式が優位であった。

支出	単年度
建設整備費	約1.8億円
維持管理運営費	約2億円
計	約3.8億円

※維持管理運営費は類似施設等を参考にした現時点における概算。収入想定額を差し引くと市の財政負担額は約3.7億円の見込み。

＜今後のスケジュール＞

年度	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
建設	選定	基本設計・実施設計	入札	開館準備
運営	選定	運営計画	選定	開館準備

注：2021年R3に「連携」の矢印が建設と運営の間に伸び、2022年R4に「運営管理者決定」の矢印が運営の間に伸びる。